

大学の世界展開力強化事業
(2016年度採択)
2019年度フォローアップ結果

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会

2019年10月24日

独立行政法人 日本学術振興会

フォローアップの総括

2016年度に採択された25件のプログラムについて、①交流プログラムの内容、②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成、③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備、④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及の各観点により、計画の進捗状況や設定した達成目標に対する実績（派遣・受入学生数）等を調査票によりフォローアップの上、主なものを抽出・整理した。

2018年度の各プログラムの状況を見ると、ダブル・ディグリープログラムが着実に実施されるとともに、それぞれの構想の目的や特色を反映した取組が行われている。また、複数のプログラムにおいて支援期間中に修了生の輩出が見込まれているほか、プログラムへの参加経験を活かして国際機関に就職した例が見られる。

事業全体で見ると、タイプA（キャンパス・アジア等による交流）とタイプB（ASEAN地域との交流）の派遣・受入学生数は事業開始以来いずれの年度も目標を上回っている。

支援最終年度を来年度に控え、各プログラムにおいては引き続き目的に沿って取組内容を充実させ、成果を挙げていくことが期待される。

なお、このフォローアップは、大学の世界展開力強化事業の適正な事業管理を行うとともに、採択プログラムにおける円滑な事業実施の支援や成果の還元のため、各取組の進捗状況等を確認することを目的に実施しているものである。

取組の進捗状況

① 交流プログラムの内容

東京大学 (A-①-1)

東京大学、ソウル大学校、北京大学の各教員がオムニバス形式で学期を通じた授業とフィールドトリップを行うCAMPUS Asia Joint Courseを開始した。また、ビデオ中継により3大学の院長が登壇しソウル・北京の学生も参加する一般公開によるIntellectual Dialogueは先進的な試みであり、2019年度春学期にはソウル大学校で同様のコースを開講した。

東京工業大学 (A-①-2)

サマースクールにおいて、連携大学である清華大学とKAISTに加え、初の試みとして香港科技大、南洋理工、ENSAM、コーネル大、ケンブリッジ大、ヨーク大、ウィーン工科大、UCバークレーから総数28名の学生を受け入れることで、本コンソーシアムの学生にさらに国際的な環境で教育プログラムに参加する機会を提供した。

名古屋大学 (A-①-4)

学生自身が派遣期間について半年か1年のいずれかを選択できるようにしたことで、年々本プログラムに興味を持つ学生が増加している。

神戸大学 (A-①-5)

長期留学のみならず短期プログラムを各大学で整備することで、長期留学により得られる専門性への理解を深め、心理的不安を解消する取組を行っている。実際に派遣先大学の学生・教員との交流が長期留学に繋がる事例もあり、有用である。

岡山大学 (A-①-6)

学生のモビリティ確保という量的な交流実績の達成とともに、これまでの人文社会科学系と医歯薬系に加え自然・環境生命学系においても短期・長期の派遣及び受入プログラム開発を行っている。また、各学生の専門分野の研究教育に加え、学際的な内容の共通科目を開設し、インディペンデント・スタディにおいても廃棄物処理の社会学と環境学からのアプローチによる研究活動を行っている。

九州大学 (A-①-7)

サマースクールに計92名、オータムセミナー（CSS-EEST国際会議）に計124名と、ダブルディグリー生に加えてキャンパスアジアプログラム以外の学生や今後キャンパスアジアプログラムに参加する可能性のある学生も含めて、計画を上回る数の学生が参加した。

千葉大学 (A-②-1)

エクセレント・サマー（ウィンター）・プログラムでは、日本人109名、中国人85名、韓国人88名、その他11名の合計293名の学生が、企業や地方自治体の協力によりインターンシップを含む実践型の教育を行った。参加者からは、アジアのトップ校の学生とのチームワークから学ぶことが多い点や企業での実践的な経験が得られる点など、良い評価を得ている。短期ワークショップをきっかけに長期留学を希望する学生が出てきており、成果のひとつと言える。

東京藝術大学（A-②-4）

「国際共同演習」を3か月に渡る共同カリキュラムとして実施したことで、参加学生の「共同制作相手国の文化等への知識・理解」の深まりや「国際的なコミュニケーション能力」の向上を確認し、国際共同制作や共同研究を牽引する人材を養成した。また、参画教員にとっては教育のメソッドの交換・共有の機会となり、学生にとっては将来の活動に向けた人的ネットワークを形成する極めて重要な場となった。

早稲田大学（A-②-9）

キャンパス・アジアコア科目や関連科目の履修学生数が増大し、うち長期派遣学生は25名・受入11名、短期は派遣4名・受入22名であった。今後の長期留学生数増加に対応するため、選抜基準の見直しや募集回数の増加、全学的な広報体制等を整備した。

東京外国語大学（B-1）

長期受入学生が山形スタディツアーで日本の地方創生の取組について学び、1日インターンシップでは各学生の出身国において事業を展開している企業の経営理念や社会貢献について理解を深めた。大学院では計画以上の派遣が実現し、学生の専門分野の研究を進展させ、学位請求論文の完成に繋がった。

新潟大学（B-3）

2018年度の留学生と在学生の参加者88名のうち2016-18年度において他の国際グループワークインターンシップ参加経験者が15名で、その中で在学参加から留学参加へのステップアップが11名（派遣5名、受入6名）、より長い期間へのステップアップが6名だったのは、段階的プログラムの構成の特徴であると言える。グループワーク活動は、学業活動を超えてホスト大学在学生による派遣受入留学生への現地生活サポートの充実にも波及し、異文化理解を伴う信頼関係の構築に有効であった。この信頼関係が参加経験学生コミュニティの形成にも繋がり、事業実施の支援に貢献している。

名古屋大学（B-4）

企業連携について、ジェトロ名古屋の協力を得て新しい取組を複数実施した。受入プログラムでは、地元の醸造企業と連携し商品の海外展開に関するワークショップを行い、マーケティングの要素が大きいながらも、経済学部の学生だけでなく法学・農学の学部生や国際開発研究科の大学院生、さらに交換留学生も積極的に議論に参加し、結果として企業側からとても高い評価が得られた。

京都大学、関西大学（B-5）

計画（派遣21名、受入19名）を超える32名の日本人学生を派遣し、29名の外国人学生を受け入れた。これにより、社会基盤・環境分野でのインフラ人材として、ASEAN 各国の歴史・社会・経済状況を理解し、地域にふさわしい社会基盤を考え、その形成に汗を流し行動する国際人材の育成に寄与した。

② 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

一橋大学 (A-①-3)

本事業の取組を軸に、新たにフィリピンのAIM、インドネシア国立大学、インドのIIMバンガロールとの連携が可能となった。連携先を増やすことは学生達にも多くの学びの場を提供できることとなるため、本事業の促進にも大いに繋がるものとする。

岡山大学 (A-①-6)

様々な分野の研究課題に対応するマルチリンガルな人材育成を目指し、大学院レベルの英語科目も含めたキャンパス・アジア冠科目を設定することで、ラーニング・アグリーメントの制度化に向けた単位互換のスムーズな実施に繋がった。パイロット事業における教養教育から本事業における専門教育への展開に向けて、学院レベルでのダブル・ディグリーの制度化を推進してきた。社会文化科学系では大学間での協議により実施体制が整い、薬学系ではダブル・ディグリーの学生受入を開始している。

千葉大学 (A-②-1)

学部4科目、修士課程6科目、博士課程4科目の計14の授業科目を新規に開設した。このうち修士と博士課程の科目は全てワールド・スクールの総合科学科目群である。各科目では、授業＋ワークショップ＋インターンシップ・プログラムと連動することで、学生は専門的な科目と実践的な知識の両方を獲得できる。

東京藝術大学 (A-②-4)

連携3大学の教員が綿密な協議を重ねたことにより、次年度以降の交流プログラムについて外部有識者を含めた十分な検討とレビューを経て最終的に決定するとともに、モニタリングにおいても事業の進捗状況・内容について審査委員会のメンバーから高い評価を得た。

大阪大学 (A-②-6)

日中韓のコンソーシアム大学間で共通の評価票を作成し、交流学生の自己評価や本プログラムへの評価を実施している。同様に、担当教員による交流学生への成績評価票を作成し、3か国共通の様式により成績評価を実施している。

九州大学 (A-②-7)

本学主導で設立した国際機構 IASUR (International Alliance for Sustainable Urbanization and Regeneration) の国際ネットワークを活用し、建築環境教育の国際化に向け情報交換・共有を行い、質の保証を伴ったプログラムを実施している。

長崎大学 (A-②-8)

約4か月ごとのRound Table Meetingやインフラ人材育成コンソーシアム運営会議を通して連携3大学間の信頼関係と意思疎通を十分に担保した。また、中国・山東大学でのモニタリング+における実地審査チームと事業責任者及び事業担当者による多角的な意見交換を経て、実地審査チームから高い評価を得た。

早稲田大学 (A-②-9)

連携3大学合同での問題点の洗い出しと改善を進め、本学では開発経済学の専門教員の加入により社会変革関連のカリキュラムをさらに充実させるとともに、プログラム委員会の刷新により全学運営体制を強化させた。また、各大学の事業責任者・担当教員が相互訪問し、学生向けの直接的な広報や模擬講義を行い、大きな成果を得た。

東京外国語大学 (B-1)

受講状況や達成度に応じて長期受入学生に付与した単位についてラオス国立大学では日本語総合、聴解、読解、文法科目が「日本語7」に単位認定され、王立プノンペン大学では本学の履修が在籍学年次に必要な単位分としてパッケージで認定された。

東京藝術大学 (B-2)

ミャンマー国立文化芸術大学ヤンゴン校と本事業に基づく人材交流、共同授業、交換留学等に係る覚書を締結した。

名古屋大学 (B-4)

ミャンマー・ヤンゴン大学で日本への受入プログラムの参加学生を募集する際に、本学教員が集中講義や相談会を実施し、期待される能力や日本での支援について説明を行った。結果として、前年度よりも質の高い学生が日本を訪れ、高い目標を持って活動することができた。

広島大学 (B-6) 、広島経済大学

プログラムへの参加を通じた学修成果及び留学前後の意識変化について、成績評価やコンピテンシー評価に加え米国で開発された心理測定ツール (BEVI: Beliefs, Events and Values Inventory) を活用することでより客観的に測定の上分析し、プログラム全体の評価・改善に活用している。

慶應義塾大学 (B-7)

コン地域諸国大学とASEAN諸国大学との連携拠点として各大学の教職員間の協力体制の構築や学生間交流の場とすべく、ベトナム・ハノイ法科大学に本学大学院法務研究科グローバル法研究所ハノイオフィスを開設した。

明治大学 (B-8)

シーナカリンウィロート大学とタマサート大学より客員教員を招き、英語による専門科目の講義を実施するとともに、本学教員との共同研究プロジェクトを立ち上げた。また、バンコクとベトナムのUNWOMEN指導の下で日本・タイ・ベトナムの3か国学生のジェンダー意識調査とインタビューを実施し、ハノイ国連本部において外部に開かれた形で結果を報告した。

③ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

一橋大学 (A-①-3)

Part Time MBA学生の受入を開始したことで様々なバックグラウンドを持つ学生が共に学び交流を持つことができるようになり、学生の意識向上に繋がった。今後も積極的にPart Time MBAの受入を行い、我々のビジョンである「日本を熟知し、アジアに根差し、かつ世界に大きな影響を与えることができるグローバル・リーダーの育成」に努めていく。

立命館大学 (A-①-8)

学習と生活を支援する学生によるCAPサポーターを組織し、ランゲージエクステンション等の企画・運営を行っている。また、日中韓の学生が共修する「CAP演習」を履修し、東アジア人文学の課題について共に学んでいる。ピア・ラーニング、ピア・サポート体制を整備したほか、サポーター学生の中には中国や韓国への交換留学にチャレンジする学生も現れ、本プログラムの学内への波及と学生の国際的学びの拡大に寄与している。

東京海洋大学 (A-②-5)

連携3大学に英語の堪能なコーディネーターや職員を配置（本学では日本語、中国語及び韓国語のトリリンガルのコーディネーターも採用）し、SNSで相互に繋がることで迅速に情報を共有している。また、個々の学生とも繋げることで外務省からの治安情報の送信及び既読確認が容易となり、学生からの質問や悩み相談にも迅速に対応するなど、支援体制を整備している。

早稲田大学 (A-②-9)

派遣学生に課している「留学適性検査」は、基本的性格（気質的な側面と捉えられるもの）と社会的能力（社会生活の中で身に付けられるもの）の2つの側面から学生が自分自身について理解するもので、臨床心理学の見地から作成した質問に回答することで、学生はオンライン上で結果レポートを確認できる。これにより学生は海外適性に関する強み・弱みを把握するなどセルフケアを行うことが可能である。

新潟大学 (B-3)

プログラム参加経験学生のコミュニティを活用し、プログラム参加学生に対して自身の経験を踏まえた多様な助言や、留学生の日常生活の立ち上げに加え、彼らのキャンパスライフや履修活動等の支援をした。また、これをきっかけに、交流した留学生の母国に在学生在が本プログラムで留学する好循環も生まれている。

広島大学 (B-6)、広島経済大学

2018年7月の西日本豪雨での経験を踏まえ、大規模自然災害等の危機発生時における受入留学生の安否確認を円滑に実施するため、本学で全学的に策定している構成員の安否確認手順に基づく関係教職員間での役割や情報共有手順を作成した。

慶應義塾大学 (B-7)

寮の契約や銀行口座開設時に担当チューターが個別に立ち会い、受入学生がスムーズに学業と生活が始められるようサポートしている。日常生活においてもチューターによる相談窓口を設け、学業に専念できる環境の整備に努めている。

明治大学 (B-8)

外国人留学生と日本人学生が学習及び交流スペースを共にしながら生活する混住型学生寮「明治大学グローバルヴィレッジ」は、国際コミュニティを形成するための「学びの場」として機能するとともに、快適な修学環境の提供という面で大きく貢献している。

④ 事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

東京大学 (A-①-1)

キャンパスアジアによる受入学生の属する国際プログラムコースは英語のみで専門職学位が取得可能で、世界各国から留学生が集まっている。また、公共政策大学院は学内で唯一ダブル・ディグリーを実施しており、留学生の割合は学内で突出し、英語による授業は2018年度で46%に達するほか、英語による学内会議を開催するなど、本学の国際化を牽引する存在である。

九州大学 (A-①-7)

総合理工学研究院に国際教育に携わるIFC部門を新たに設置し、外国人教員を積極的に採用した。

千葉大学 (A-②-1)

連携3大学に加え、植物環境イノベーションに強い中国の北京林業大学、中国美術学院、広州美術学院、大連理工大学、韓国のソウル国立大、明知大学、韓京大学校、シンガポール国立大学といった他のトップ大学も参加するなど、連携校以外からも積極的にプログラムへの協力を得ることにより大学の国際化を推進するとともに、プログラムの質を向上させている。

東京藝術大学 (A-②-4)

「中国(北京)国際学生アニメーション映画祭Aniwow! 2018」や「Before Now After」(ソウル市)において本事業により制作した作品など事業内容・成果について発表したほか、連携3大学共同の特設ウェブサイト(caica.online)上で広報活動を促進することにより、事業について学内外・国内外に広く発信した。

九州大学 (A-②-7)

提携大学と情報交換を密に行い、各大学が開催した5つのワークショップと2つの国際会議ワークショップへ学生の派遣・受入を実施した。また、国連ハビタットと連携し、海外への広報を実施している。

東京外国語大学 (B-1)

ウェブサイトに掲載した記事83件のうち、21件を日本語以外の言語で掲載した。これにより、ミャンマー、ラオス、カンボジアからのアクセス数が増加し、広く情報提供することに寄与した。

東京藝術大学 (B-2)

シラパコーン大学と連携し、タイの童話を題材に音響作品の共同制作を行い、学生2名と教員2名がSEAMEX(東南アジア音楽教育交流の国際学会)にて発表を行った。ベトナム国家音楽院と実施した共同コンサートは200名の観客を動員し、国内外のメディアで取り上げられた。

新潟大学 (B-3)

短期受入について越後ジャーナル、短期派遣がVietnam Plus、B News、Public Security Newsの各メディアに掲載された。また事業の成果をアジア工学教育カンファレンスACEE2018(新潟大学。教員の口頭発表1件、参加経験学生の口頭発表4件)、日本工学教育協会年次大会国際セッション講演会「工学教育における国際連携」(名古屋工業大学。教員の口頭発表1件)で報告し、学生のフォローアップ活動にも繋がった。

慶應義塾大学 (B-7)

研究成果を取りまとめた図書「How Civil Law Is Taught in Asian Universities: Volume III of PAGLEP Series」を出版し、国内の法科大学院や海外の協定大学に提供するとともに、ウェブサイト上で公開した。

特記すべき成果

一橋大学 (A-①-3)

事業により得た知識とノウハウにより、Yale大学、インドのIIMBとダブルディグリー・プログラムの協定を締結した。世界的に評価の高い大学と提携し学生間の交流を図ることで、本事業における国際交流と学生の更なる知識向上にも繋げていく。

神戸大学 (A-①-5)

リスクマネジメントセミナーを開催し、国際機関で活躍している国内外の実務家による専門的な世界基準の講義を行った。また、神戸市で阪神淡路大震災に関する被災地スタディツアーを、岩手県盛岡市及び陸前高田市で東日本大震災被災地研修をそれぞれ実施し、リスク・マネジメントの実践に対する学生の理解を深めた。一方で、修了生がアクセンチュア株式会社、UNICEFエジプト事務所、シエラレオネ日本大使館といった国際的なリスク・マネジメントに関わる機関・企業に就職しており、グローバルな人材育成プログラムとしての成果を挙げている。

岡山大学 (A-①-6)

パイロット事業から取り組んできた思想や経済に関する共通教科書（『東アジアの共通善 和・通・仁の現代的再創造をめざして』、『日中韓経済学』）が、補助金に頼らない自立した事業として継続できる目処が立っている。また、受け入れた留学生の中には、プログラムに参加したことで国際的な視野を広げるとともに、実践で通用する高度なマルチリンガル能力を身に付け日本で就職しており、アジアクラット（中核的高度実践人）の育成が一步步前進していると言える。

立命館大学 (A-①-8)

①4学期の移動キャンパスの修学、②所要単位の修得、③3か国語での卒業論文要旨の提出、の3要件を満たすことによって、連携する3大学共通の「プログラム修了証」を発行することで合意し、日中韓を架橋する独自の学士学位プログラムへの道標を示すとともに、参加学生が到達すべき目標を明確化した。また、3大学の教学上の統一性と連携体制を強化し、教学内容や学生の学習・成績・生活に関する情報を共有し、教学体制を協議する教員組織として、3大学合同の教授会であるキャンパスアジア教授会を新たに設置し、プログラムや教学内容を相互に確認し合い、プログラムの育成目標を達成するための情報の交換と課題を協議する場とした。

千葉大学 (A-②-1)

本事業のワークショップでは、農林水産省が推奨する「6次産業化」に「4次産業のサービス・イノベーション」を付加した6+4=10次産業を創出することを目的としている。PBL型授業では、企業のテーマ・スポンサーを受けることで研究+実践型のプログラムを行っており、「4次産業のサービス・イノベーション」のリーダーであるアリババ（中国：オンライン・マーケット企業）とKT（韓国：通信企業）を企業スポンサーとしてワークショップを実施した。最先端の情報を基に課題を検討し、企業の専門家からコメントや指導を受けることで、実践的な課題解決に取り組むとともに、インターンシップと継続することで、企業の現場において実践型学習を実現している。

東京大学 (A-②-2)

派遣学生数は累計で104名、受入学生数は67名と、いずれも当初の目標を大幅に上回った。

九州大学 (A-②-7)

国際的な場において、海外学生と共同でグループ作業による課題に取り組むことで切磋琢磨し多様な考えやプロセスを実践的に修得させるべく、本学学生を海外ワークショップや国際会議に派遣した結果、彼らの専門教育に対する学習意欲と英語に対する意識の向上に繋がった。中国・同済大学でのワークショップでは、派遣した学生が3位入賞を果たすなど、実績を残している。また、提携大学と行っている協働教育プログラムをベースにした発展的な授業のうち、一部の科目が連携3大学以外の海外大学において正規科目として採択された。

長崎大学 (A-②-8)

本学で開催した「アジアにおけるインフラストラクチャーに関する国際シンポジウム」において、インフラ整備やインフラ維持管理に係る学識経験者をインドネシア、ベトナム、ラオス、タイ等から招聘し、日本のインフラ人材育成プログラムを中心に、中国・韓国及びASEAN諸国との比較を通してASEAN諸国が抱えるインフラ整備・維持管理技術の現状と問題点を共有した。

東京外国語大学 (B-1)

派遣学生が、在日本カンボジア王国大使館でのカンボジア語スピーチコンテストにおいて1位、3位を受賞した。また、留学を通じて語学力や異文化理解の向上に加え、現地で働く意欲の高まりや、知識の深長を成果として挙げる学生が多く見られた。一方、短期受入学生のうち8割が日本語を聞く力や日本語でのコミュニケーション能力が伸びたと感じていること、参加学生16名中の15名が今後長期の日本留学プログラムに参加する意志を示しており、学修意欲の向上が確認できた。

新潟大学 (B-3)

本学と燕市の包括連携協定を基に、産業振興の情報発信及びインターンシップ推進等を燕市から委託実施している「(公社)つばめいと」との連携で、複数の燕地域企業と協働した国際的で課題解決型のGWインターンシップを無料宿泊施設等を活用して実施した。単なる就業体験に留まらない新しい地域産業振興活動として、新聞報道や燕市長ブログで紹介され、社会的な注目を得た。

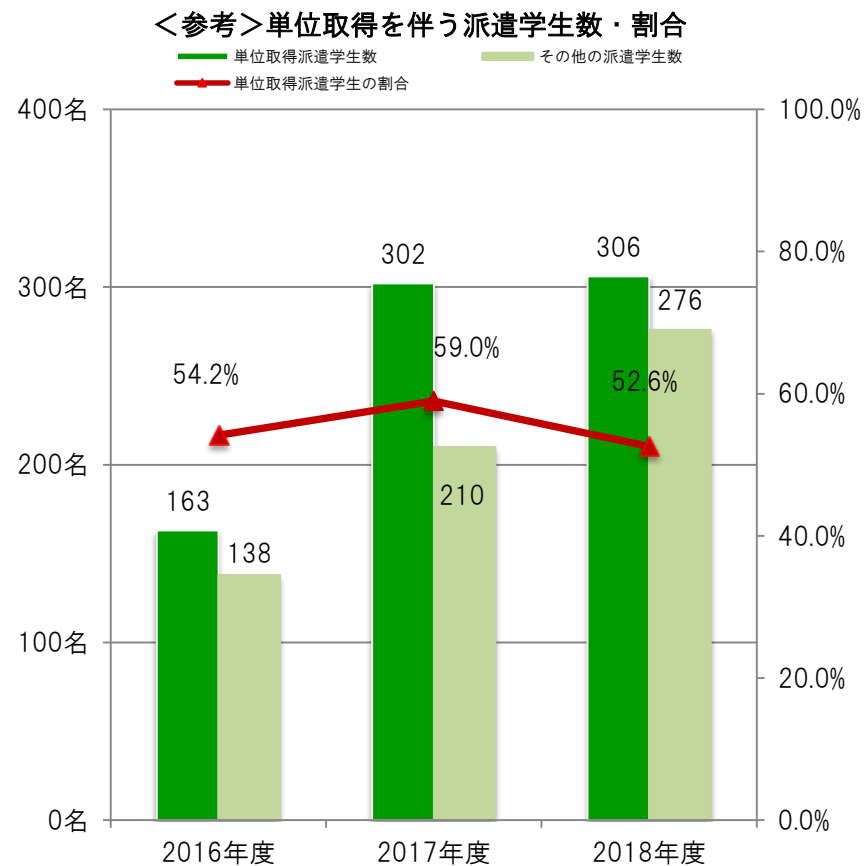
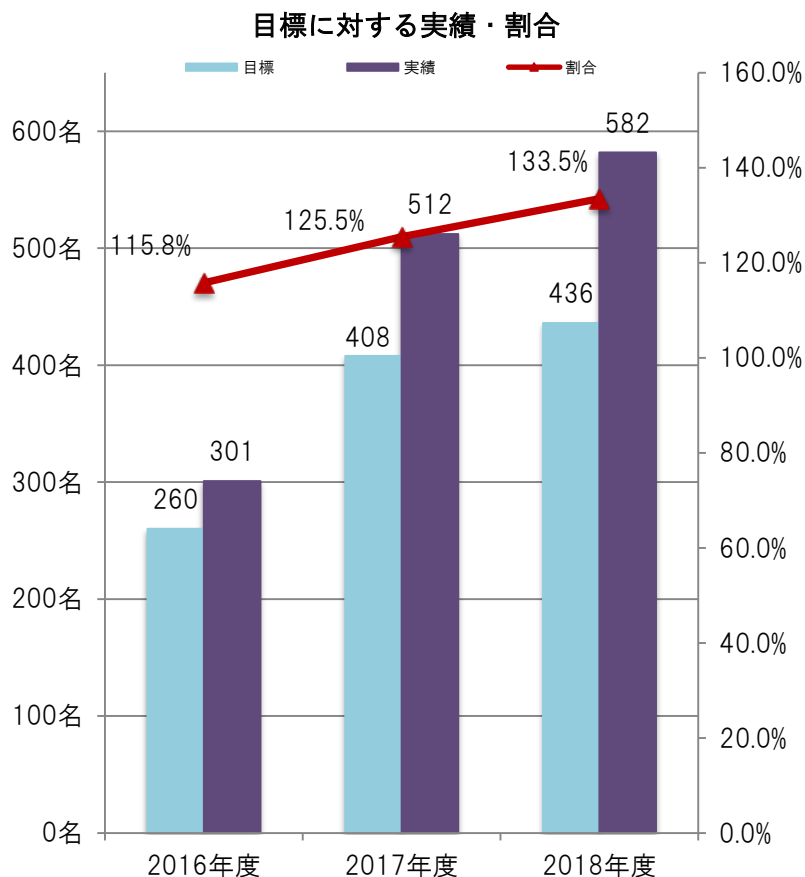
京都大学 (B-5) 、関西大学

社会基盤・環境分野でのインフラ人材として、ASEAN 各国の歴史・社会・経済状況を理解し、地域にふさわしい社会基盤を考え、その形成に汗を流し行動する国際人材を育成すべく、計画（派遣21名、受入19名）を上回る32人の日本人学生を派遣し、29人の外国人学生を受け入れた。また、事業の広報・成果普及に努めた結果、新たにカンボジア工科大学とインドネシア・ブラウウィジャヤ大学が連携大学となった。

交流学生数の実績（1）

（1-1）留学した日本人学生数（派遣学生数）〈タイプA全17プログラムの年度別推移〉

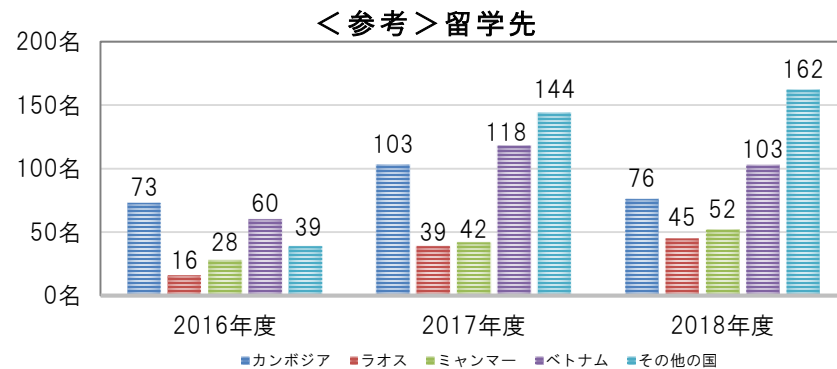
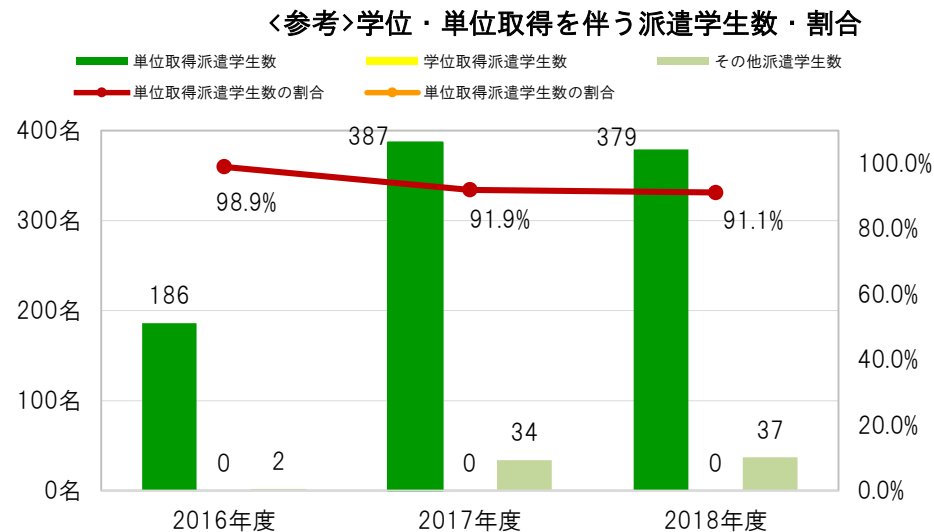
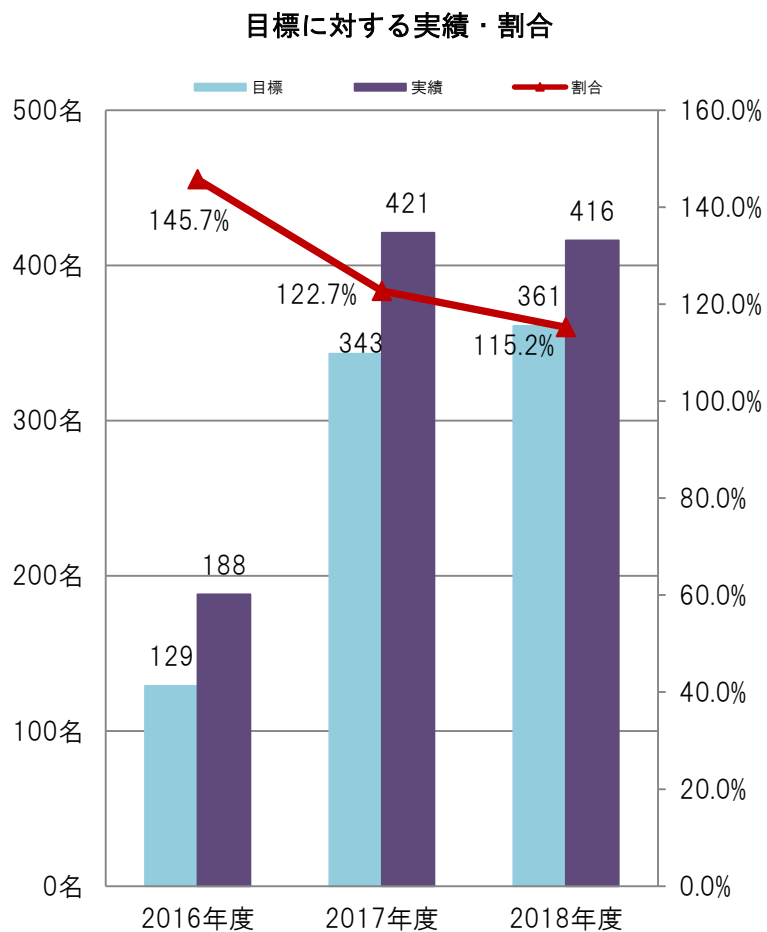
いずれの年度も目標を上回っている。うち単位取得を伴う派遣学生数は事業開始以来一貫して増加し、全体に占める割合も半数を超えている。



※詳細は別表1参照

(1-1) 留学した日本人学生数（派遣学生数）〈タイプB全8プログラムの年度別推移〉

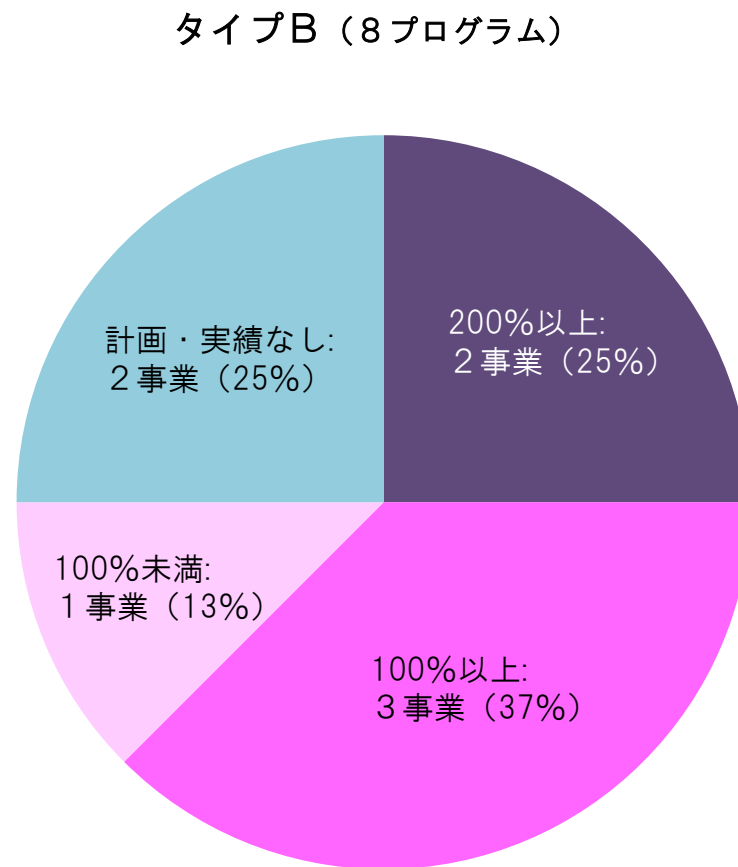
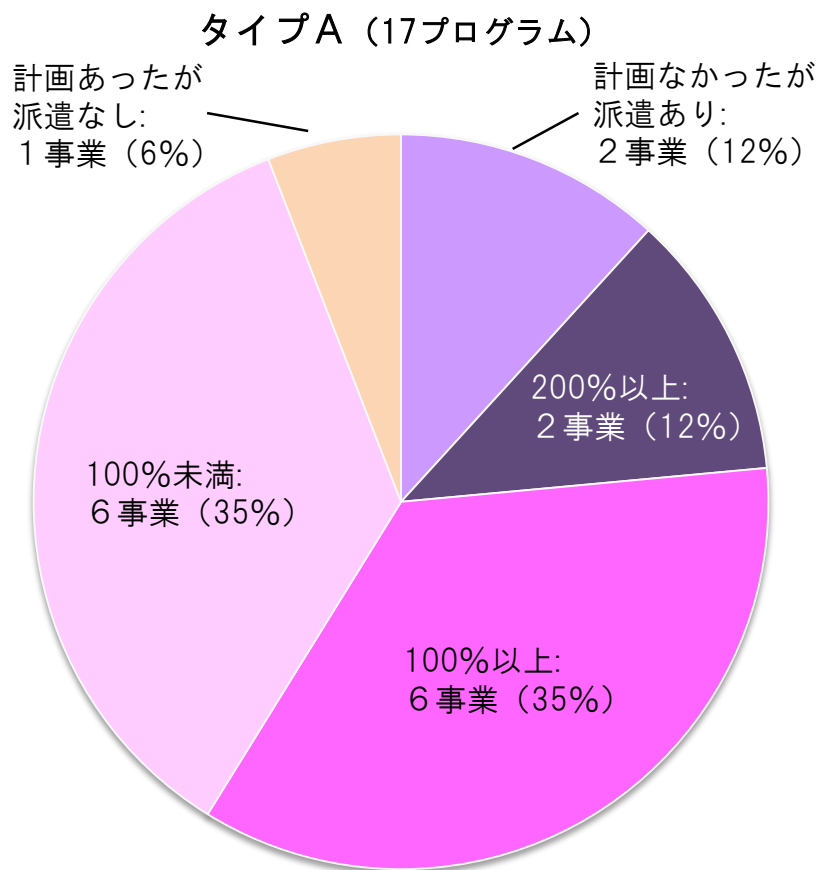
いずれの年度も目標を上回っている。うち単位取得を伴う派遣学生数は、全体に占める割合は減少しつつも依然高い水準を保っている。



※詳細は別表3、5参照

(1-2) 留学した日本人学生数（派遣学生数）〈2018年度の達成状況〉

目標に対する達成率



※詳細は別表1、3参照

(1-3) 交流プログラム（派遣）の進捗状況

東京工業大学（A-①-2）

派遣予定学生と派遣経験学生、短期受入学生の交流会を開催し自由に意見交換が出来る場を設けたことにより、互いに友好を深め「キャンパス・アジア生」というチーム意識が生まれるとともに、派遣を控える学生にとって、事前に受入先大学の学生と情報交換が出来る機会となった。

名古屋大学（A-①-4）

学生自身が派遣期間について半年か1年のいずれかを選択できるようにしたことで、年々本プログラムに興味を持つ学生が増加している。また、当初半年の予定で派遣後、1年に延長する事例も増えている。

岡山大学（A-①-6）

学生のモビリティ確保という量的な交流実績の達成とともにプログラムの質の向上に向けて、短期プログラムを単なる相互訪問ではなく、講義やセミナー、フィールドワーク、学生交流など多面的に経験できる内容とした。また、留学経験者による学習・生活体験の共有が短期プログラムの参加者増に繋がっているだけでなく、短期プログラムを経験した上で交換留学へと移行する学生数も派遣・受入ともに増加している。

東京学芸大学（A-②-3）

2018年度夏季のソウル教育大学校への短期派遣学生数である45名は、2010～15年度の6年間の実績と同数であった。短期参加者の増加は、半年から1年の長期交換留学参加者確保に直接つながる基礎条件であり、明るい動向と言える。

長崎大学（A-②-8）

前年度のサマースクールへの参加を経て、学部生がダブルディグリー・プログラムによって中国・山東大学へ長期留学した。

京都大学（B-5）、関西大学

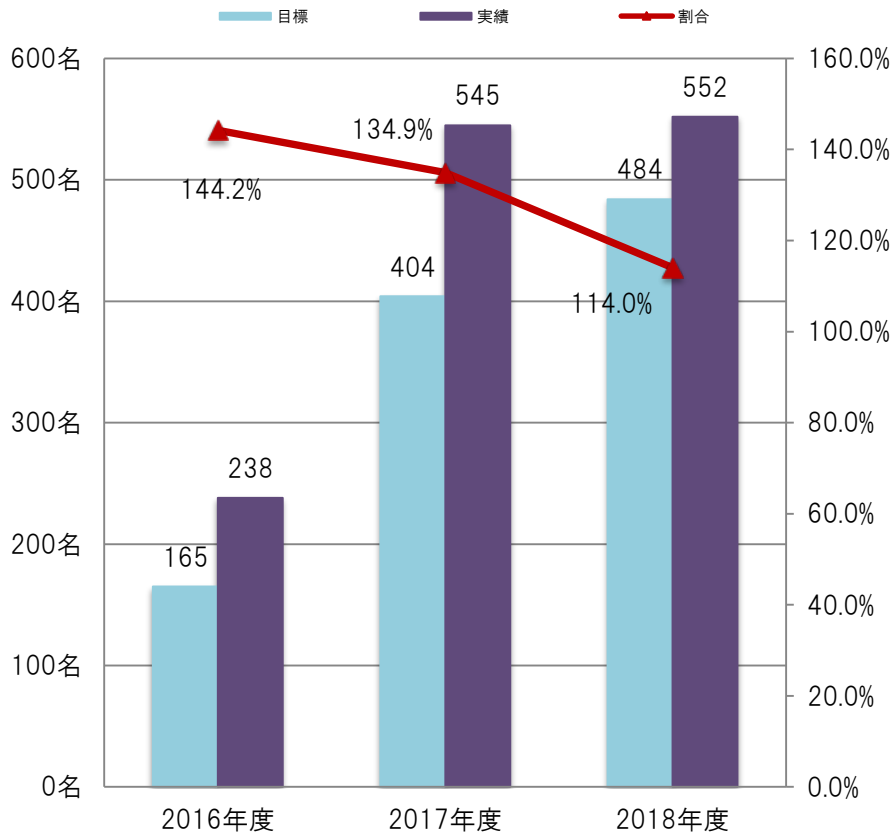
プログラムの広報活動を通じて新たに連携大学3校を追加した。うち1校はこれまで派遣学生数が少なかったカンボジアの大学であることから、今後交流促進に向け取り組んでいく。

交流学生数の実績（2）

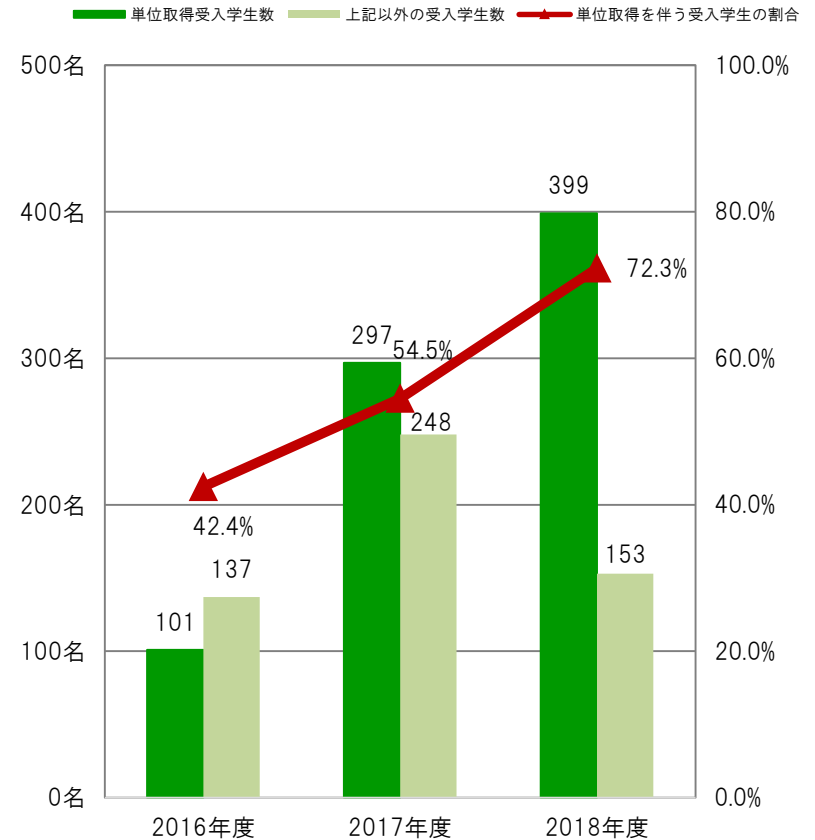
（2-1）外国人学生数（受入学生数）〈タイプA全17プログラムの年度別推移〉

いずれの年度も目標を上回っている。うち単位取得を伴う受入学生数は事業開始以来一貫して増加し、全体に占める割合も拡大している。

目標に対する実績・割合



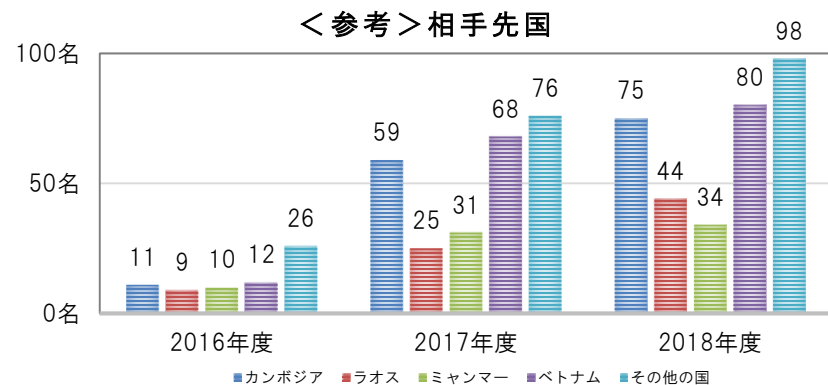
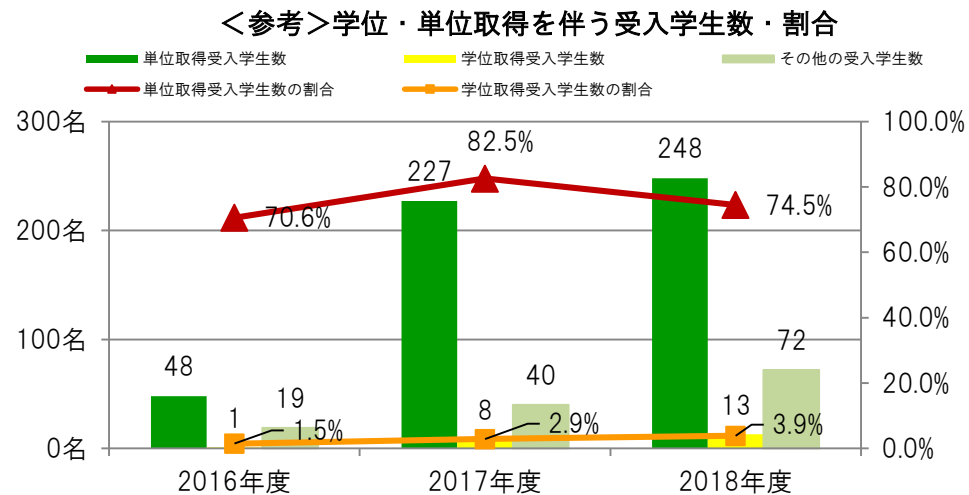
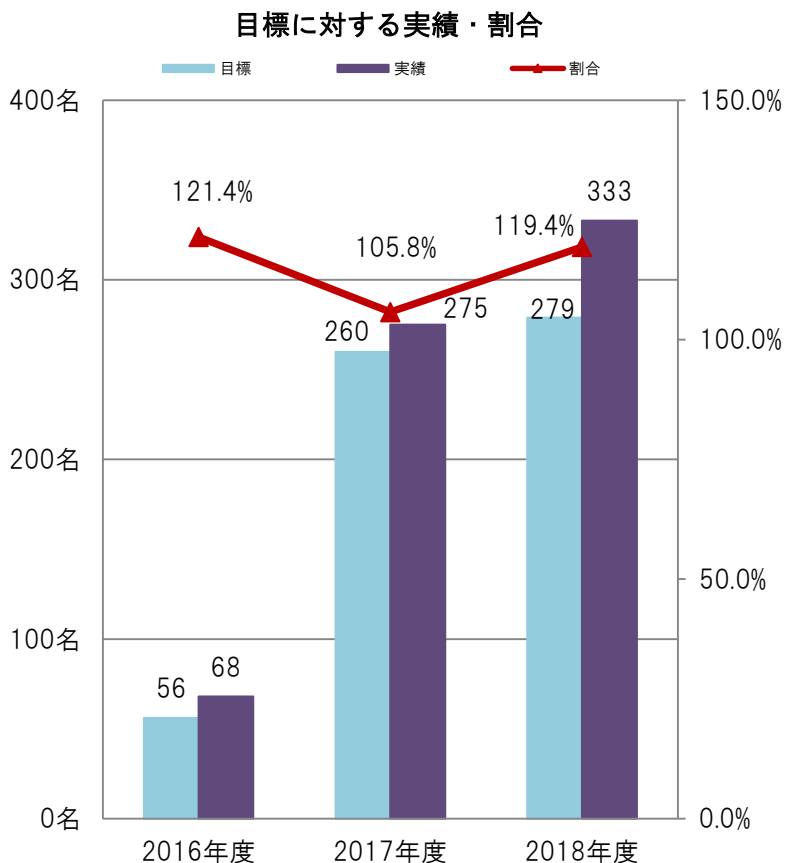
〈参考〉単位取得を行う受入学生数・割合



※詳細は別表2参照

(2-1) 外国人学生数（受入学生数）〈タイプB全8プログラムの年度別推移〉

いずれの年度も目標を上回っている。うち学位あるいは単位取得を伴う受入学生数は事業開始以来一貫して増加している。

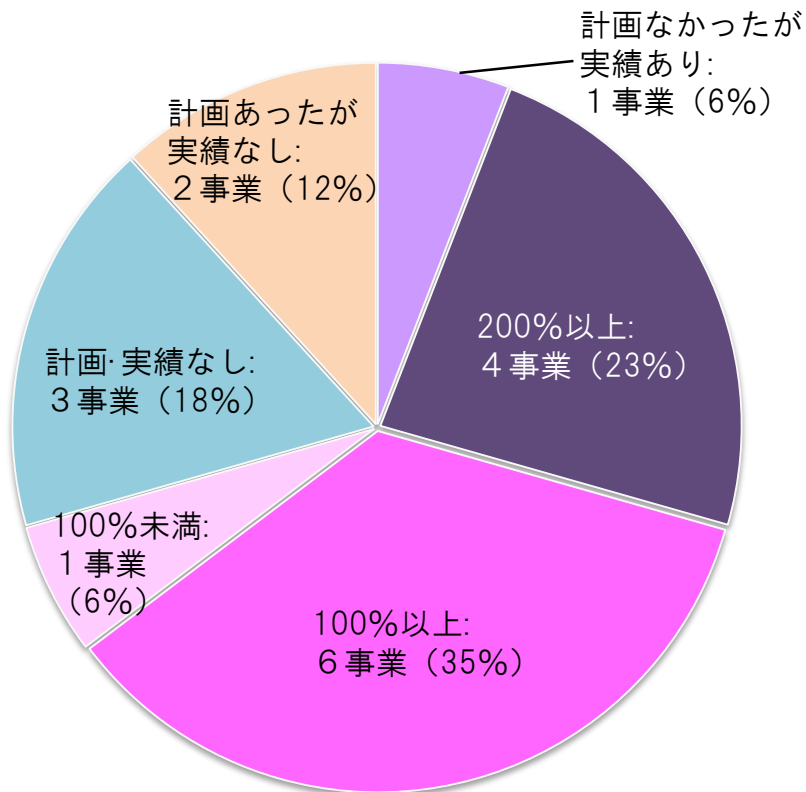


※詳細は別表4、6参照

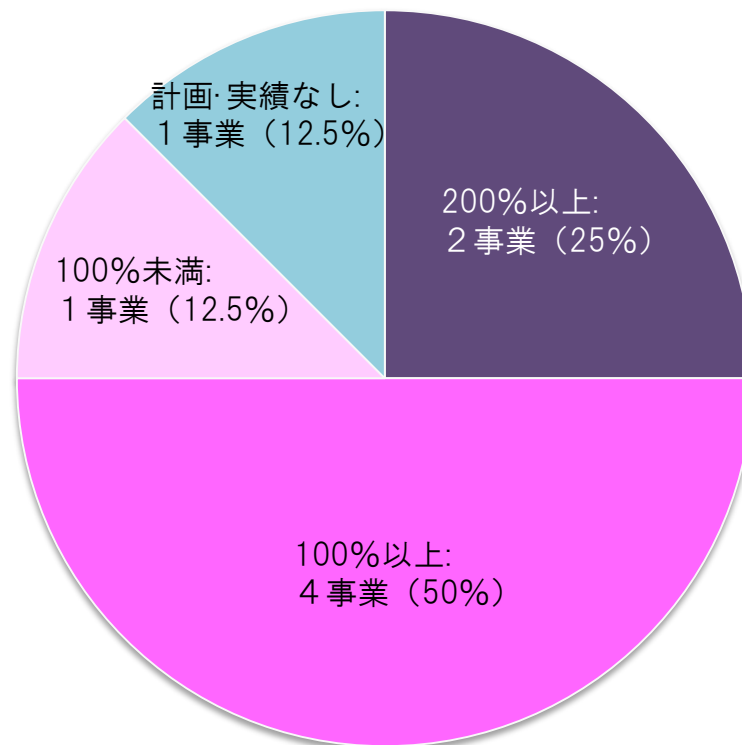
(2-2) 外国人学生数（受入学生数）〈2018年度の達成状況〉

目標に対する達成率

タイプA（17プログラム）



タイプB（8プログラム）



※詳細は別表2、4参照

(2-3) 交流プログラム（受入）の進捗状況

神戸大学（A-①-5）

パイロットプログラム期と比べてプログラムの魅力（学位、ゼミ指導）、学生支援（チューター制度）、キャリア支援（インターンシップ派遣）が広く学生に認知されたことで、受入は安定して推移している。特にキャリア支援は中国・韓国の学生にとっては魅力的であるため、引き続きキャリアセミナーの実施、インターンシップ派遣のサポートを行い、グローバルな人材育成に努めていく。

岡山大学（A-①-6）

従来の人文社会科学系と医歯薬系に加え、環境生命系の交流事業を開始し、全学的に東アジア高等教育圏を見据えた中核的高度実践人であるアジアクラット（中核的高度実践人）の育成を進めている。また、キャンパスアジア修了要件を設定するとともに共通科目として東アジアリーダーシップ論を開講したほか、大学院レベルでの英語による学習に対応できる体制を整えた。薬学系においては、共同研究を基盤とする博士学位ダブルディグリー・プログラムを開始した。

九州大学（A-①-7）

サマースクールを開催し、上海交通大から33名、釜山大から40名と、目標数を大幅に上回る学生の参加があった。

東京学芸大学（A-②-3）

キャンパス・アジア事業の受入プログラムでは、キャンパス・アジア推進室に勤務するコーディネーター等が月例ミーティングを開催し、指導教員の下での学修状況やチューターとの関係、サークルでの活動状況等を確認するなど、受入学生の生活面・心理面に配慮しつつきめ細かく支援を進めている。

新潟大学（B-3）

前年度のタイでの短期派遣プログラムに現地でホスト学生として参加した学生が、短期2名、中期2名、長期1名とステップアップで本学へ留学した。

別表1:プログラムごとの派遣学生数(2016年度採択・タイプA)

(単位:名)

		取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)											
			目標	実績		単位取得を伴う派遣学生数					左記以外の派遣学生数						
						(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上	
			目標	実績		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績		
タイプA①	東京大学	H28	10	4	40.0	10	4	0	0	10	4	0	0	0	0	0	0
		H29	14	12	85.7	14	10	0	0	14	10	0	2	0	2	0	0
		H30	13	10	76.9	13	8	0	0	13	8	0	2	0	2	0	0
		計	37	26	70.3	37	22	0	0	37	22	0	4	0	4	0	0
	東京工業大学	H28	5	6	120.0	0	3	0	3	0	0	5	3	5	1	0	2
		H29	10	11	110.0	10	3	2	1	8	2	0	8	0	6	0	2
		H30	10	16	160.0	10	0	2	0	8	0	0	16	0	2	0	14
		計	25	33	132.0	20	6	4	4	16	2	5	27	5	9	0	18
	一橋大学	H28	16	2	12.5	11	2	5	1	6	1	5	0	5	0	0	0
		H29	16	12	75.0	11	12	5	12	6	0	5	0	5	0	0	0
		H30	16	12	75.0	11	12	5	10	6	2	5	0	5	0	0	0
		計	48	26	54.2	33	26	15	23	18	3	15	0	15	0	0	0
名古屋大学	H28	28	22	78.6	10	3	0	0	10	3	18	19	18	19	0	0	
	H29	28	30	107.1	10	10	0	0	10	10	18	20	18	20	0	0	
	H30	28	30	107.1	10	11	0	0	10	11	18	19	18	19	0	0	
	計	84	82	97.6	30	24	0	0	30	24	54	58	54	58	0	0	
神戸大学	H28	11	9	81.8	7	5	0	0	7	5	4	4	4	4	0	0	
	H29	15	36	240.0	8	5	0	0	8	5	7	31	5	31	2	0	
	H30	15	26	173.3	8	9	0	0	8	9	7	17	5	17	2	0	
	計	47	71	151.1	23	19	0	0	23	19	24	52	14	52	10	0	
岡山大学	H28	40	49	122.5	35	46	20	40	15	6	5	3	3	3	2	0	
	H29	55	56	101.8	40	56	20	47	20	9	15	0	10	0	5	0	
	H30	55	65	118.2	40	53	20	38	20	15	15	12	10	12	5	0	
	計	150	170	113.3	115	155	60	125	55	30	35	15	23	15	12	0	
九州大学	H28	75	102	136.0	43	36	33	29	10	7	32	66	30	66	2	0	
	H29	58	48	82.8	56	36	44	27	12	9	2	12	0	12	2	0	
	H30	44	43	97.7	12	6	0	0	12	6	32	37	30	37	2	0	
	計	177	193	109.0	111	78	77	56	34	22	66	115	60	115	6	0	
立命館大学	H28	20	21	105.0	20	21	0	0	20	21	0	0	0	0	0	0	
	H29	60	55	91.7	60	55	0	0	60	55	0	0	0	0	0	0	
	H30	80	69	86.3	80	69	0	0	80	69	0	0	0	0	0	0	
	計	160	145	90.6	160	145	0	0	160	145	0	0	0	0	0	0	
合計			728	746	102.5	529	475	156	208	373	267	199	271	171	253	28	18
タイプA②	千葉大学	H28	20	31	155.0	20	31	6	31	14	0	0	0	0	0	0	
		H29	32	38	118.8	32	38	14	38	18	0	0	0	0	0	0	
		H30	38	34	89.5	38	28	14	26	24	2	0	6	0	6	0	
		計	90	103	114.4	90	97	34	95	56	2	0	6	0	6	0	
	東京大学	H28	0	9	900.0	0	2	0	2	0	0	0	7	0	7	0	
		H29	14	54	385.7	8	7	0	0	8	7	6	47	6	47	0	
		H30	14	41	292.9	8	16	0	2	8	14	6	25	6	25	0	
		計	28	104	371.4	16	25	0	4	16	21	12	79	12	79	0	
	東京学芸大学	H28	6	5	83.3	6	3	0	0	6	3	0	2	0	2	0	
		H29	16	32	200.0	11	12	5	4	6	8	5	20	5	20	0	
		H30	18	87	483.3	13	24	5	15	8	9	5	63	5	63	0	
		計	40	124	310.0	30	39	10	19	20	20	10	85	10	85	0	
東京藝術大学	H28	0	7	700.0	0	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0		
	H29	10	21	210.0	10	21	5	9	5	12	0	0	0	0	0		
	H30	10	16	160.0	10	16	5	12	5	4	0	0	0	0	0		
	計	20	44	220.0	20	44	10	28	10	16	0	0	0	0	0		

取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)													
	目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う派遣学生数						左記以外の派遣学生数							
				(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上			
				目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績		
東京海洋大学		H28	3	8	266.7	3	0	3	0	0	0	0	8	0	8	0	0
		H29	10	39	390.0	10	10	4	9	6	1	0	29	0	29	0	0
		H30	10	30	300.0	10	13	4	10	6	3	0	17	0	17	0	0
		計	23	77	334.8	23	23	11	19	12	4	0	54	0	54	0	0
大阪大学		H28	5	5	100.0	5	0	5	0	0	0	5	0	5	0	0	0
		H29	10	14	140.0	10	0	5	0	5	0	14	0	13	0	1	
		H30	15	17	113.3	15	0	5	0	10	0	17	0	17	0	0	
		計	30	36	120.0	30	0	15	0	15	0	36	0	35	0	1	
九州大学		H28	5	17	340.0	5	0	5	0	0	0	17	0	17	0	0	
		H29	20	37	185.0	20	16	15	16	5	0	21	0	21	0	0	
		H30	20	44	220.0	20	8	15	6	5	2	36	0	36	0	0	
		計	45	98	217.8	45	24	35	22	10	2	74	0	74	0	0	
長崎大学		H28	6	4	66.7	6	0	0	0	6	0	4	0	4	0	0	
		H29	10	10	100.0	10	4	0	0	10	4	6	0	6	0	0	
		H30	10	13	130.0	10	8	0	4	10	4	5	0	5	0	0	
		計	26	27	103.8	26	12	0	4	26	8	15	0	15	0	0	
早稲田大学		H28	10	0	0	10	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	
		H29	30	7	23.3	30	7	0	0	30	7	0	0	0	0	0	
		H30	40	29	72.5	40	25	0	0	40	25	0	4	0	4	0	
		計	80	36	45.0	80	32	0	0	80	32	0	4	0	4	0	
合計			382	649	169.9	360	296	115	191	245	105	22	353	22	352	0	1
総計			1,110	1,395	125.7	889	771	271	399	618	372	221	624	193	605	28	19

別表2:プログラムごとの受入学生数(2016年度採択・タイプA)

(単位:名)

	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)													
		目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う受入学生数						左記以外の受入学生数							
					(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上			
					目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績		
タイプA①	東京大学	北京-ソウル-東京(BESETO)ダブル・ディグリー・プログラム:国際・公共政策共同研究	H28	4	0	0.0	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	
			H29	11	11	100.0	11	11	0	0	11	11	0	0	0	0	0	0
			H30	14	13	92.9	14	13	0	0	14	13	0	0	0	0	0	0
			計	29	24	82.8	29	24	0	0	29	24	0	0	0	0	0	0
	東京工業大学	日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム	H28	5	10	200.0	0	0	0	0	0	0	5	10	5	6	0	4
			H29	10	20	200.0	10	12	4	6	6	6	0	8	0	0	0	8
			H30	10	22	220.0	10	14	4	6	6	8	0	8	0	8	0	0
			計	25	52	208.0	20	26	8	12	12	14	5	26	5	14	0	12
	一橋大学	アジア・ビジネスリーダー・プログラムⅡ(アドバンス)	H28	26	31	119.2	26	2	20	0	6	2	0	29	0	29	0	0
			H29	26	22	84.6	26	22	20	20	6	2	0	0	0	0	0	0
H30			26	43	165.4	26	20	20	17	6	3	0	23	0	23	0	0	
計			78	96	123.1	78	44	60	37	18	7	0	52	0	52	0	0	
名古屋大学	東アジア「ユス・コムネ」(共通法)形成にむけた法的・政治的認識共同体の人材育成	H28	10	8	80.0	10	8	0	0	10	8	0	0	0	0	0	0	
		H29	28	54	192.9	28	34	18	18	10	16	0	20	0	20	0	0	
		H30	28	21	75.0	28	15	18	0	10	15	0	6	0	6	0	0	
		計	66	83	125.8	66	57	36	18	30	39	0	26	0	26	0	0	
神戸大学	東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム	H28	8	8	100.0	8	8	0	0	8	8	0	0	0	0	0	0	
		H29	10	10	100.0	10	7	0	0	10	7	0	3	0	3	0	0	
		H30	10	11	110.0	10	9	0	0	10	9	0	2	0	2	0	0	
		計	28	29	103.6	28	24	0	0	28	24	0	5	0	5	0	0	
岡山大学	東アジア高等教育圏を見据えた中核的高度実践人=アジアクラット育成プログラム	H28	40	52	130.0	31	27	20	14	11	13	9	25	5	25	4	0	
		H29	55	56	101.8	40	33	20	15	20	18	15	23	10	23	5	0	
		H30	55	65	118.2	40	20	20	0	20	20	15	45	10	45	5	0	
		計	150	173	115.3	111	80	60	29	51	51	39	93	25	93	14	0	
九州大学	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム-ダブルディグリープログラムの高度化と定着・恒常化-	H28	12	50	416.7	10	10	0	0	10	10	2	40	0	40	2	0	
		H29	74	120	162.2	12	11	0	0	12	11	62	109	60	107	2	2	
		H30	86	87	101.2	84	83	72	73	12	10	2	4	0	4	2	0	
		計	172	257	149.4	106	104	72	73	34	31	66	153	60	151	6	2	
立命館大学	東アジア人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営移動キャンパス	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		H29	40	34	85.0	40	34	0	0	40	34	0	0	0	0	0	0	
		H30	80	71	88.8	80	71	0	0	80	71	0	0	0	0	0	0	
		計	120	105	87.5	120	105	0	0	120	105	0	0	0	0	0	0	
合計			668	819	122.6	558	464	236	169	322	295	110	355	90	341	20	14	
タイプA②	千葉大学	植物環境イノベーション・プログラム	H28	24	35	145.8	24	35	8	34	16	1	0	0	0	0	0	
			H29	31	39	125.8	31	39	10	35	21	4	0	0	0	0	0	
			H30	33	26	78.8	33	26	10	22	23	4	0	0	0	0	0	
			計	88	100	113.6	88	100	28	91	60	9	0	0	0	0	0	
	東京大学	日中韓教養教育アライアンスによる高度教養教育の充実と「協創型人材」の育成	H28	12	13	108.3	0	0	0	0	0	0	12	13	12	13	0	0
			H29	8	22	275.0	8	8	0	0	8	8	0	14	0	14	0	0
			H30	24	32	133.3	8	16	0	0	8	16	16	16	16	16	0	0
			計	44	67	152.3	16	24	0	0	16	24	28	43	28	43	0	0
	東京学芸大学	東アジア教員養成国際大学院プログラム	H28	6	14	233.3	6	11	0	0	6	11	0	3	0	3	0	0
			H29	16	42	262.5	6	32	0	0	6	32	10	10	10	10	0	0
H30			18	50	277.8	8	37	0	0	8	37	10	13	10	13	0	0	
計			40	106	265.0	20	80	0	0	20	80	20	26	20	26	0	0	
東京藝術大学	国際アニメーションコース創設に向けた日中韓Co-workカリキュラム	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		H29	15	20	133.3	15	16	5	6	10	10	0	4	0	4	0	0	
		H30	5	18	360.0	5	18	5	16	0	2	0	0	0	0	0	0	
		計	20	38	190.0	20	34	10	22	10	12	0	4	0	4	0	0	

	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)												
		目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う受入学生数						左記以外の受入学生数						
					(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		
目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績		
東京海洋大学	「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム	H28	3	9	300.0	3	0	3	0	0	0	0	9	0	9	0	0
		H29	10	28	280.0	10	5	4	0	6	5	0	23	0	23	0	0
		H30	10	16	160.0	10	7	4	0	6	7	0	9	0	9	0	0
		計	23	53	230.4	23	12	11	0	12	12	0	41	0	41	0	0
大阪大学	世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム	H28	5	5	100.0	5	0	5	0	0	0	0	5	0	5	0	0
		H29	10	17	170.0	10	0	5	0	5	0	0	17	0	14	0	3
		H30	15	15	100.0	15	15	5	14	10	1	0	0	0	0	0	0
		計	30	37	123.3	30	15	15	14	15	1	0	22	0	19	0	3
九州大学	アジア都市・建築環境の発展的持続化を牽引する人材育成のための協働教育プログラム	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		H29	20	22	110.0	20	22	15	15	5	7	0	0	0	0	0	0
		H30	20	20	100.0	20	15	15	8	5	7	0	5	0	5	0	0
		計	40	42	105.0	40	37	30	23	10	14	0	5	0	5	0	0
長崎大学	日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業	H28	0	3	300.0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0
		H29	10	10	100.0	10	10	0	0	10	10	0	0	0	0	0	0
		H30	10	9	90.0	10	9	0	0	10	9	0	0	0	0	0	0
		計	20	22	110.0	20	19	0	0	20	19	0	3	0	3	0	0
早稲田大学	多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成プログラム	H28	10	0	0	10	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0
		H29	30	18	60.0	30	1	0	0	30	1	0	17	0	17	0	0
		H30	40	33	82.5	40	11	0	0	40	11	0	22	0	22	0	0
		計	80	51	63.8	80	12	0	0	80	12	0	39	0	39	0	0
合計		385	516	134.0	337	333	94	150	243	183	48	183	48	180	0	3	
総計		1,053	1,335	126.8	895	797	330	319	565	478	158	538	138	521	20	17	

別表5： 交流相手国別の派遣学生数(2016年度採択・タイプB)

	取組年度	合計人数	達成目標に対する実績の割合(%)	相手国別内訳											
				目標(計)	実績(計)	カンボジア		ラオス		ミャンマー		ベトナム		その他(左記4か国以外)	
						目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
東京外国語大学	日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム	H28	32	31	96.9	8	7	12	11	12	13	0	0	0	0
		H29	32	34	106.3	7	7	12	12	13	15	0	0	0	0
		H30	32	36	112.5	7	5	13	15	12	16	0	0	0	0
		計	96	101	105.2	22	19	37	38	37	44	0	0	0	0
東京藝術大学	日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～	H28	18	22	122.2	0	0	6	3	6	9	0	0	6	10
		H29	36	56	155.6	6	11	0	3	12	18	18	10	0	14
		H30	36	50	138.9	6	4	6	10	6	6	12	17	6	13
		計	90	128	142.2	12	15	12	16	24	33	30	27	12	37
新潟大学	メコン諸国と連携した地域協働・ドミトリ型融合教育による理工系人材育成	H28	2	2	100.0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
		H29	15	17	113.3	1	1	1	1	0	0	2	2	11	13
		H30	20	25	125.0	1	1	1	2	0	0	15	19	3	3
		計	37	44	118.9	2	2	2	3	0	0	17	21	16	18
名古屋大学	ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラム	H28	36	79	219.4	7	45	7	0	7	6	15	23	0	5
		H29	59	104	176.3	27	53	7	15	5	3	15	26	5	7
		H30	65	88	135.4	27	32	7	9	8	11	16	16	7	20
		計	160	271	169.4	61	130	21	24	20	20	46	65	12	32
○京都大学、関西大学	気候変動下でのレジリエントな社会発展を担う国際インフラ人材育成プログラム	H28	0	0	#DIV/0!	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		H29	21	30	142.9	1	1	1	0	2	4	17	3	0	22
		H30	21	32	152.4	1	0	1	1	2	0	5	8	12	23
		計	42	62	—	2	1	2	1	4	4	22	11	12	45
○広島大学、広島経済大学	CLMV諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献する研究力と社会起業力の融合人材育成	H28	0	0	#DIV/0!	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		H29	44	32	72.7	21	14	5	6	3	2	13	8	2	2
		H30	50	50	100.0	6	30	5	3	15	6	14	6	10	5
		計	94	82	—	27	44	10	9	18	8	27	14	12	7
慶應義塾大学	LLMを用いたメコン地域諸国大学との協働によるアジア発グローバル法務人材養成プログラム(PAGLEP)の形成	H28	6	16	266.7	1	7	1	0	1	0	2	9	1	0
		H29	15	20	133.3	3	6	2	2	2	0	5	6	3	6
		H30	15	20	133.3	3	1	2	5	2	0	5	13	3	1
		計	36	56	155.6	7	14	5	7	5	0	12	28	7	7
明治大学	CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造	H28	62	66	106.5	10	14	10	2	10	0	22	28	10	22
		H29	121	153	126.4	8	10	8	0	8	0	41	63	56	80
		H30	122	137	112.3	8	3	8	0	8	13	42	24	56	97
		計	305	356	116.7	26	27	26	2	26	13	105	115	122	199
合計		860	1100	127.9	159	252	115	100	134	122	259	281	193	345	

タイプB

別表6: 交流相手国別の受入学生数(2016年度採択・タイプB)

	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	相手国別内訳										
		目標(計)	実績(計)		カンボジア		ラオス		ミャンマー		ベトナム		その他(左記4か国以外)		
					目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	
東京外国語大学	日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム	H28	18	20	111.1	8	9	5	6	5	5	0	0	0	0
		H29	22	24	109.1	7	8	8	8	7	8	0	0	0	0
		H30	22	28	127.3	7	10	7	10	8	8	0	0	0	0
		計	62	72	116.1	22	27	20	24	20	21	0	0	0	0
東京藝術大学	日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～	H28	10	20	200.0	2	0	0	0	2	2	6	4	0	14
		H29	16	21	131.3	2	3	2	4	4	2	6	9	2	3
		H30	19	19	100.0	3	5	2	2	5	0	7	3	2	9
		計	45	60	133.3	7	8	4	6	11	4	19	16	4	26
新潟大学	メコン諸国と連携した地域協働・ドミトリー型融合教育による理工系人材育成	H28	2	5	250.0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5
		H29	15	19	126.7	3	4	3	4	0	0	4	5	5	6
		H30	20	22	110.0	4	4	4	4	0	0	6	6	6	8
		計	37	46	124.3	7	8	7	8	0	0	10	11	13	19
名古屋大学	ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラム	H28	4	2	50.0	0	0	2	2	0	0	2	0	0	0
		H29	41	52	126.8	11	27	3	4	3	4	17	10	7	7
		H30	42	61	145.2	11	29	3	2	2	12	17	11	9	7
		計	87	115	132.2	22	56	8	8	5	16	36	21	16	14
○京都大学、関西大学	気候変動下でのレジリエントな社会発展を担う国際インフラ人材育成プログラム	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		H29	19	30	157.9	0	1	0	0	7	8	6	3	6	18
		H30	26	29	111.5	2	1	0	0	7	7	5	4	12	17
		計	45	59	131.1	2	2	0	0	14	15	11	7	18	35
○広島大学、広島経済大学	CLMV諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献する研究力と社会起業力の融合人材育成	H28	15	14	93.3	2	2	1	1	3	3	8	7	1	1
		H29	46	36	78.3	11	11	1	0	8	7	22	16	4	2
		H30	49	38	77.6	11	10	1	0	8	4	22	20	7	4
		計	110	88	80.0	24	23	3	1	19	14	52	43	12	7
慶應義塾大学	LLMを用いたメコン地域諸国大学との協働によるアジア発グローバル法務人材養成プログラム(PAGLEP)の形成	H28	1	1	100.0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
		H29	21	20	95.2	4	5	3	2	3	2	7	10	4	1
		H30	21	45	214.3	4	3	3	21	3	1	7	15	4	5
		計	43	66	153.5	8	8	6	23	6	3	15	26	8	6
明治大学	CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造	H28	6	6	100.0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6
		H29	80	57	71.3	12	0	3	3	0	0	18	15	47	39
		H30	80	89	111.3	0	13	15	5	0	2	18	21	47	48
		計	166	152	91.6	12	13	18	8	0	2	36	36	100	93
合計		595	658	110.6	104	145	66	78	75	75	179	160	171	200	

タイプB

別表7: 財政支援・宿舎提供の状況(タイプA-①、タイプA-②)

(単位:名)

大学名	事業名	取組年度	派遣										受入									
			派遣学生数	三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			自己負担又は大学負担等による交流学生数			留学生(大学所外の留学生、大学専らの上記による留学生)に在籍している学生数	受入学生数	三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			自己負担又は大学負担等による交流学生数			留学生(大学所外の留学生、大学専らの上記による留学生)に在籍している学生数				
				交流相手国			交流相手国					交流相手国			交流相手国							
				中国	韓国	中国及び	中国	韓国	中国及び			中国	韓国	中国及び	中国	韓国	中国及び					
東京大学	北京-ソウル-東京(BESETO)ダブル・ディグリー・プログラム: 国際・公共政策共同研究	H28	4	4	0	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		H29	14	12	7	5	0	2	1	1	0	12	11	11	7	4	-	0	0	0	-	11
		H30	10	9	5	4	0	1	0	1	0	8	13	13	7	6	-	0	0	0	-	13
		計	28	25	12	13	0	3	1	2	0	24	24	24	14	10	-	0	0	0	-	24
東京工業大学	日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム	H28	6	6	0	6	0	0	0	0	6	10	10	5	5	-	0	0	0	-	10	
		H29	11	11	2	9	0	0	0	0	11	20	20	8	12	-	0	0	0	-	20	
		H30	16	16	1	15	0	0	0	0	11	22	16	8	8	-	6	4	2	-	16	
		計	33	33	3	30	0	0	0	0	28	52	46	21	25	-	6	4	2	-	46	
一橋大学	アジア・ビジネスリーダー・プログラムⅡ(アドバンスト)	H28	2	2	1	1	0	0	0	0	1	31	31	1	30	-	0	0	0	-	2	
		H29	12	12	1	1	10	0	0	0	0	22	22	12	10	-	0	0	0	-	2	
		H30	12	12	1	1	10	0	0	0	0	43	43	12	31	-	0	0	0	-	0	
		計	26	26	3	3	20	0	0	0	1	96	96	25	71	-	0	0	0	-	4	
名古屋大学	東アジア「ユス・コム・ネ」(共通法)形成にむけた法的・政治的認識共同体の人材育成	H28	22	22	9	13	0	0	0	0	22	8	8	4	4	-	0	0	0	-	8	
		H29	30	30	16	14	0	0	0	0	30	54	54	22	32	-	0	0	0	-	47	
		H30	30	30	17	13	0	0	0	0	30	21	21	10	11	-	0	0	0	-	17	
		計	82	82	42	40	0	0	0	0	82	83	83	36	47	-	0	0	0	-	72	
神戸大学	東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム	H28	9	9	2	7	0	0	0	0	9	8	8	6	2	-	0	0	0	-	8	
		H29	36	36	3	33	0	0	0	0	36	10	10	7	3	-	0	0	0	-	10	
		H30	26	26	5	21	0	0	0	0	26	11	11	8	3	-	0	0	0	-	11	
		計	71	71	10	61	0	0	0	0	71	29	29	21	8	-	0	0	0	-	29	
岡山大学	東アジア高等教育圏を見据えた中核的高度実践人=アジアクラット育成プログラム	H28	49	49	16	16	17	0	0	0	29	52	48	15	33	-	4	0	4	-	41	
		H29	56	14	6	8	0	42	15	12	15	30	56	38	14	24	-	18	0	18	-	38
		H30	65	25	10	15	0	40	18	22	0	48	65	20	11	9	-	45	20	25	-	16
		計	170	88	32	39	17	82	33	34	15	107	173	106	40	66	-	67	20	47	-	95
九州大学	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム-ダブルディグリープログラムの高度化と定着・恒常化-	H28	102	7	4	3	0	95	66	29	0	8	50	10	8	2	-	40	21	19	-	16
		H29	48	21	6	15	0	27	27	0	0	10	120	13	10	3	-	107	30	77	-	13
		H30	43	6	4	2	0	37	0	37	0	6	87	10	7	3	-	77	33	44	-	11
		計	193	34	14	20	0	159	93	66	0	24	257	33	25	8	-	224	84	140	-	40
立命館大学	東アジア人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営移動キャンパス	H28	21	21	11	10	0	0	0	0	21	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	
		H29	55	55	26	29	0	0	0	0	55	34	34	20	14	-	0	0	0	-	34	
		H30	69	69	33	36	0	0	0	0	69	71	71	40	31	-	0	0	0	-	71	
		計	145	145	70	75	0	0	0	0	145	105	105	60	45	-	0	0	0	-	105	
計			748	504	186	281	37	244	127	102	15	482	819	522	242	280	-	297	108	189	-	415

タイプA-①

タイプA②	千葉大学	植物環境イノベーション・プログラム	H28	31	31	26	5	0	0	0	0	0	0	11	35	35	25	10	-	0	0	0	-	5	
			H29	38	29	11	18	0	9	9	0	0	0	0	18	39	37	25	12	-	2	0	2	-	27
			H30	34	32	23	9	0	2	1	1	0	0	0	11	26	26	14	12	-	0	0	0	-	3
			計	103	92	60	32	0	11	10	1	0	0	0	40	100	98	64	34	-	2	0	2	-	35
	東京大学	日中韓教養教育アライアンスによる高度教養教育の充実と「協創型人材」の育成	H28	9	9	0	9	0	0	0	0	0	0	9	13	13	0	13	-	0	0	0	-	0	
			H29	54	54	30	21	3	0	0	0	0	0	7	22	22	10	12	-	0	0	0	-	8	
			H30	41	41	8	33	0	0	0	0	0	0	14	32	32	16	16	-	0	0	0	-	16	
			計	104	104	38	63	3	0	0	0	0	0	30	67	67	26	41	-	0	0	0	-	24	
	東京学芸大学	東アジア教員養成国際大学院プログラム	H28	5	4	2	2	0	1	1	0	0	3	14	8	6	2	-	6	3	3	-	11		
			H29	32	11	4	7	0	21	10	11	0	8	42	35	20	15	-	7	4	3	-	32		
			H30	87	15	6	9	0	72	26	46	0	9	50	28	15	13	-	22	14	8	-	37		
			計	124	30	12	18	0	94	37	57	0	20	106	71	41	30	-	35	21	14	-	80		
	東京藝術大学	国際アニメーションコース創設に向けた日中韓Co-workカリキュラム	H28	7	7	0	7	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0		
			H29	21	21	10	11	0	0	0	0	0	21	20	20	10	10	-	0	0	0	-	20		
			H30	16	16	10	6	0	0	0	0	0	16	18	18	10	8	-	0	0	0	-	18		
			計	44	44	20	24	0	0	0	0	0	44	38	38	20	18	-	0	0	0	-	38		
	東京海洋大学	「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム	H28	8	8	8	0	0	0	0	0	0	9	9	0	9	-	0	0	0	-	0			
			H29	39	39	20	19	0	0	0	0	0	10	28	28	2	26	-	0	0	0	-	5		
			H30	30	30	15	15	0	0	0	0	0	13	16	16	12	4	-	0	0	0	-	7		
			計	77	77	43	34	0	0	0	0	0	23	53	53	14	39	-	0	0	0	-	12		
	大阪大学	世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム	H28	5	5	4	1	0	0	0	0	0	4	5	5	3	2	-	0	0	0	-	5		
			H29	14	14	7	7	0	0	0	0	0	13	17	17	11	6	-	0	0	0	-	17		
			H30	17	17	7	10	0	0	0	0	0	17	15	14	10	4	-	1	1	0	-	14		
計			36	36	18	18	0	0	0	0	0	34	37	36	24	12	-	1	1	0	-	36			
九州大学	アジア都市・建築環境の発展的持続化を牽引する人材育成のための協働教育プログラム	H28	17	4	2	2	0	13	1	12	0	17	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0			
		H29	37	32	9	23	0	5	5	0	0	37	22	22	11	11	-	0	0	0	-	22			
		H30	44	44	20	24	0	0	0	0	0	44	20	20	8	12	-	0	0	0	-	20			
		計	98	80	31	49	0	18	6	12	0	98	42	42	19	23	-	0	0	0	-	42			
長崎大学	日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業	H28	4	4	2	2	0	0	0	0	0	4	3	3	0	3	-	0	0	0	-	3			
		H29	10	10	1	9	0	0	0	0	0	10	10	10	5	5	-	0	0	0	-	10			
		H30	13	13	6	7	0	0	0	0	0	13	9	9	5	4	-	0	0	0	-	9			
		計	27	27	9	18	0	0	0	0	0	27	22	22	10	12	-	0	0	0	-	22			
早稲田大学	多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成プログラム	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0			
		H29	7	7	2	4	1	0	0	0	0	7	18	18	9	9	-	0	0	0	-	16			
		H30	29	9	5	4	0	20	15	5	0	29	33	26	16	10	-	7	0	7	-	33			
		計	36	16	7	8	1	20	15	5	0	36	51	44	25	19	-	7	0	7	-	49			
計			649	506	238	264	4	143	68	75	0	352	516	471	243	228	-	45	22	23	-	338			
合計			1397	1010	424	545	41	387	195	177	15	834	1335	993	485	508	-	342	130	212	-	753			
派遣・受入学生数に対する割合(%)				72.3	30.4	39.0	2.9	27.7	14.0	12.7	1.1	59.7		74.4	36.3	38.1	-	25.6	9.7	15.9	-	56.4			

※ 日中韓の交流学生数のみを記載。